

2023年3月期第2四半期 決算説明資料

2022年10月31日



豊かな社会へのパートナー 神栄グループ

SHINYEI 神栄株式会社

証券コード: 3004

1.会社概要	P2
2.特長・強み	P8
3.中期経営計画	P23
4.サステナビリティの取組み	P29
5.2023年3月期第2四半期決算	P35
6.2023年3月期業績予想	P44
Appendix	P47

会社概要



— 暮らしを支える価値創造 —

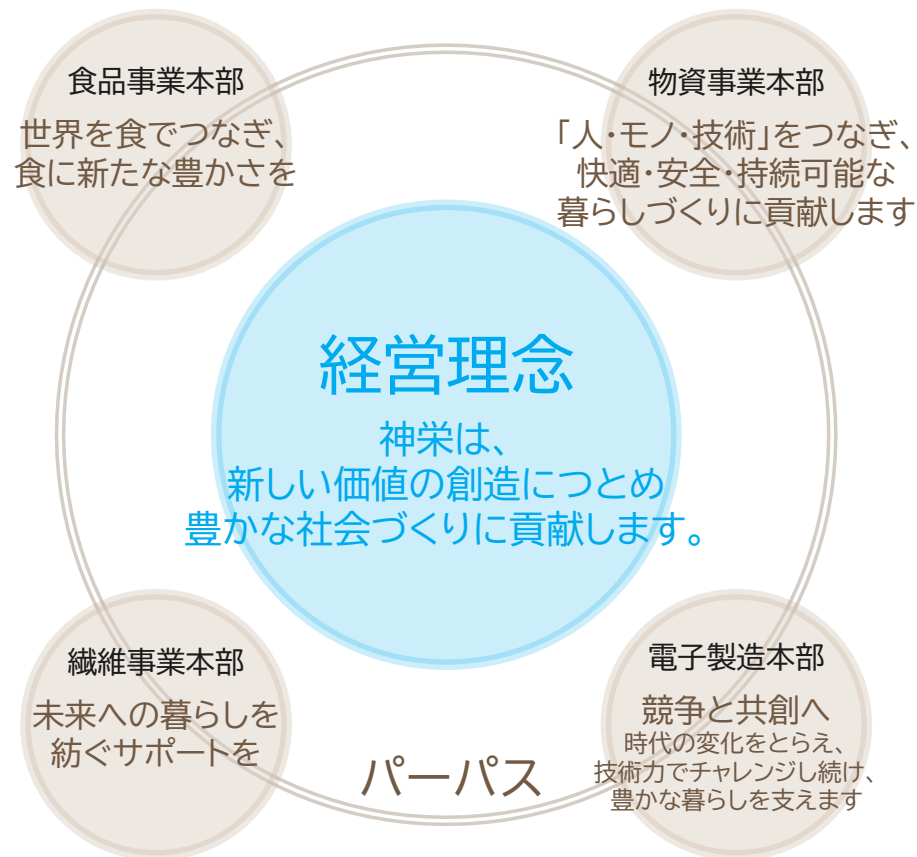
1887年、神戸の地で誕生した神栄株式会社は、
以来、神戸とともに成長し、時代の試練にも
果敢に立ち向かいながら社業を発展させてきました。

「神栄」という社名は、
「神戸の繁栄への願い」と「発祥の地である 神戸栄町」に
ちなんで命名されたもの。
私たちはこの名を大切にしながら、
世界の人々の豊かな暮らしを支える事業を展開してまいります。

会社概要

会社名	神栄株式会社(英文社名:SHINYEI KAISHA)
本社	神戸市中央区
設立	1887年5月
上場市場	東京 スタンダード市場上場(3004)
事業内容	国内および海外における各種商品の販売および輸出入、電子部品・関連製品の製造・販売および輸出
セグメント	食品関連・物資関連・繊維関連・電子関連(4セグメント)
従業員数(連結)	512名(2022年3月31日現在)

経営理念とパーパス



拠点

◆ グローバルニッチトップ
国内外でトップシェアの製品やサービスを提供



日本-Japan

神栄株式会社

- 本社(兵庫県神戸市)
- 東京支店
- 福岡支店
- 大阪支店
- 神栄グループR&Dセンター(神戸市)
- 沖縄営業所
- 名古屋営業所
- 福井営業所

グループ会社(日本)

神栄テクノロジー株式会社

- 本社(神戸市)
- つくば事業所
- 福岡工場

神栄リビングインダストリー株式会社

- 本社(神戸市)

神栄ホームクリエイイト株式会社

- 本社(大阪府)
- 東京営業所
- 福岡営業所

神栄キャパシタ株式会社

- 本社(神戸市)
- 長野工場

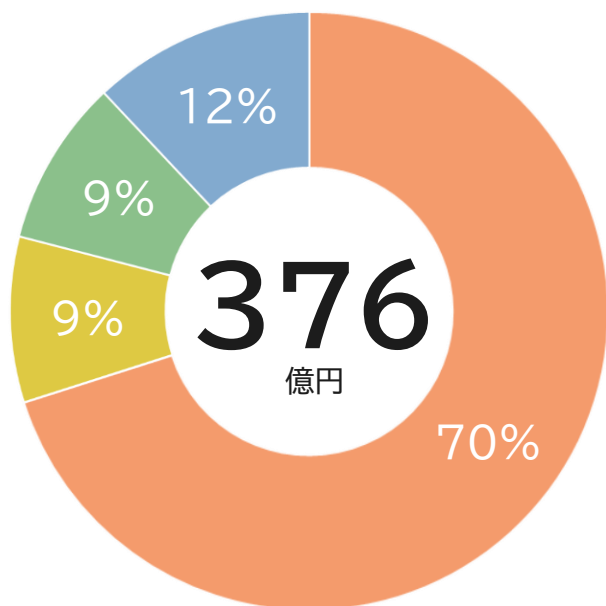
グループ会社(米州)

Shinyei Corp. of America

- 本社(ニューヨーク)
- メキシコ事務所

事業構成(2022年3月期)

2022年3月期
売上高



食品関連

264 億円



冷凍食品



農産物
(落花生・ナッツ類など)

物資関連

33 億円



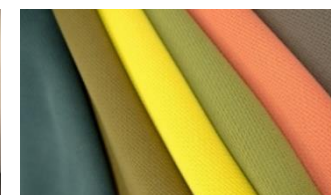
防災関連、建設機械、金属加工品、生活資材、ベアリング、
試験機、建築金物・資材

繊維関連

33 億円



アパレル



テキスタイル

電子関連

45 億円



センサ



コンデンサ



計測機器



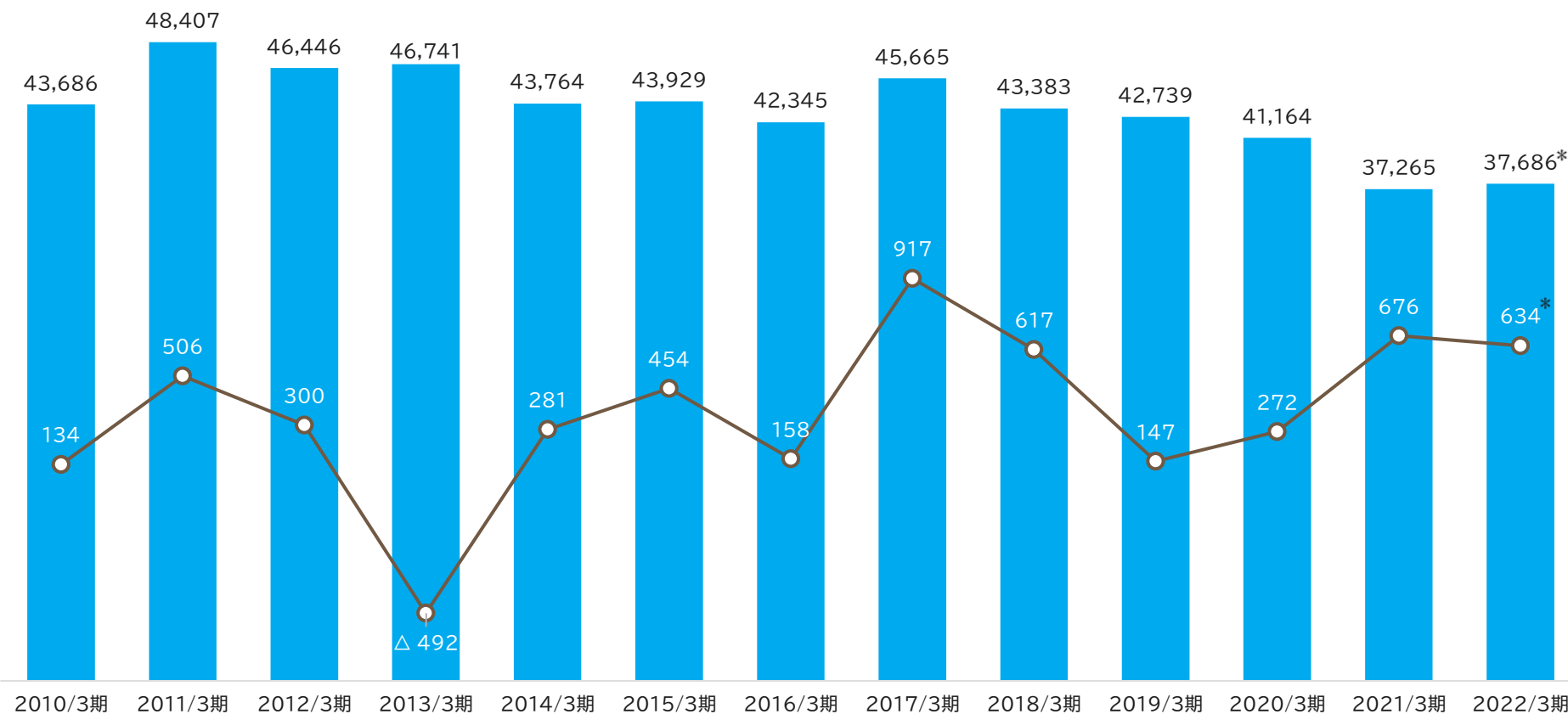
試験機

業績推移

- ◆ 食品関連が新型コロナウイルス感染症の影響を受けたことや、繊維関連における不採算事業の縮小などにより、2022年3月期の売上高は376億円となったが、会計基準変更の影響を除くと、前期比では実質6.2%増収
- ◆ 収益を安定化するため、不採算事業であった婦人服小売事業(2020年3月期)や農業事業他(2022年3月期)から撤退
- ◆ 中期的には非食品事業の構成比引き上げと、利益を重視した成長を目指す

単位:百万円

売上 経常利益



* 2022年3月期より収益認識に関する会計基準等を適用しており、従来の方法に比べ売上高は1,883百万円、経常利益は8百万円減少

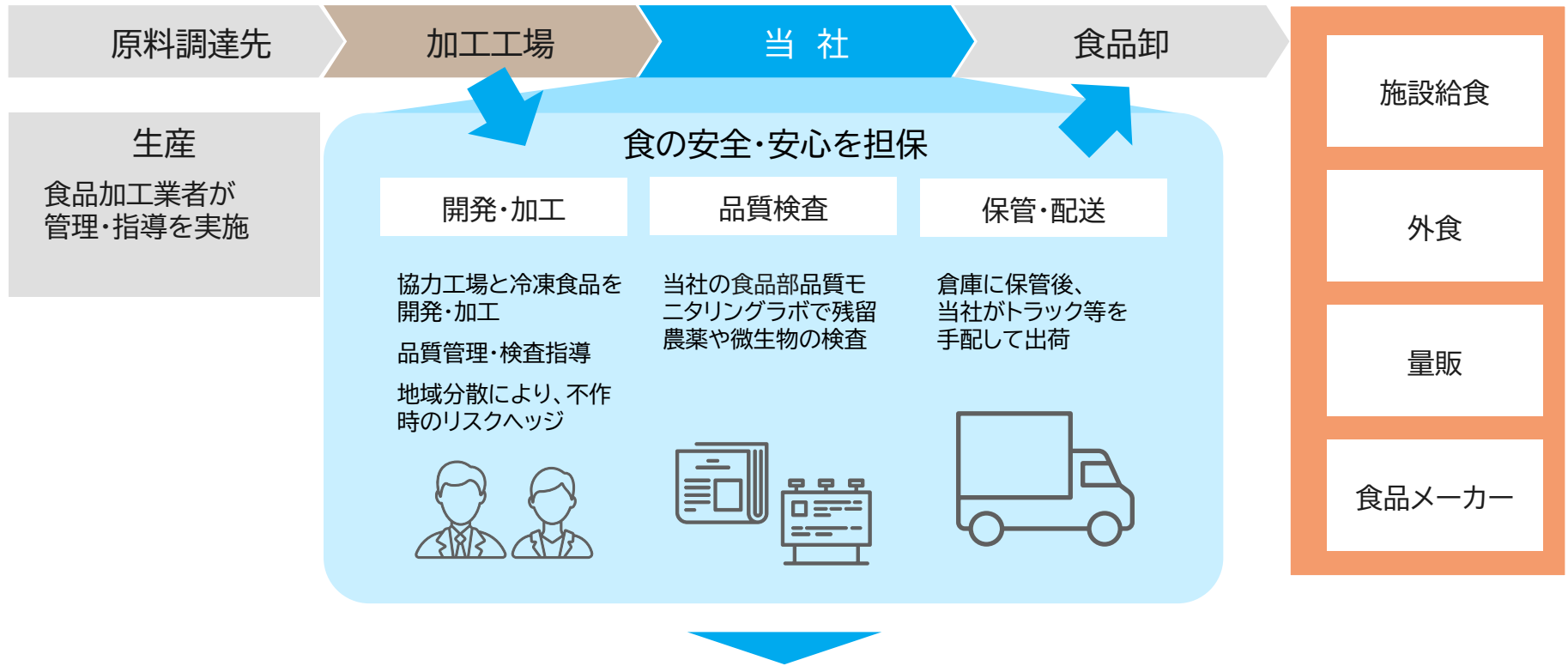
特長・強み

- 3つの商事分野に自社工場を持つ製造メーカーというハイブリッド型をベースに、食品・物資・繊維・電子に関わる4事業を手掛け、夫々の業界の好不調の影響を分散できる独自の事業構造
- 従来型の口銭ビジネスを主体とする卸商社ではなく、企画・提案・モノづくりを主体とする商社
- ニッチ市場に生きるセンサ・コンデンサ・落下試験機等の製造メーカー



強み1. 食のモノづくり商社

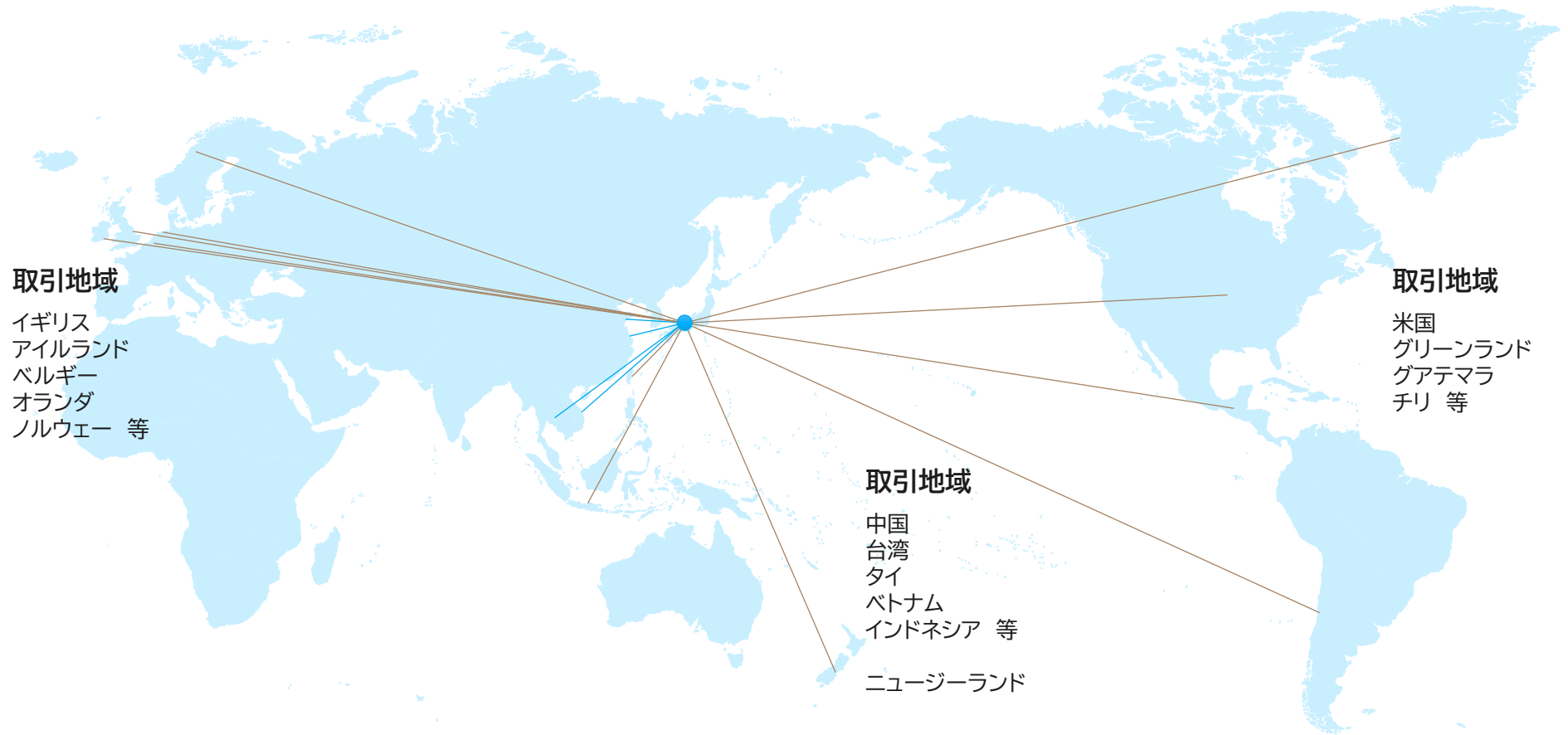
- ◆ 野菜・水産品等の冷凍食品の加工を中国など約130社の加工工場に委託、当社スタッフが生産工程と品質をチェック
- ◆ 輸入冷凍食品は食品部品質モニタリングラボで残留農薬や微生物などの品質を検査し、加工工場に品質指導
- ◆ 高い信頼性が要求される老人ホームなどの施設給食に強み、ドラッグストアや量販店など内食需要向けも強化中



幅広い調達先を持ち、コロナ禍や災害等による仕入れリスクを分散

グローバルに広がる原料調達ネットワーク

- ◆ 商社のグローバルネットワークを活かして、野菜や水産物を中国・東南アジア・米国等で加工して日本へ輸入
- ◆ 海外にも、長期に渡る取引実績で信頼関係を築いた20か国以上の現地パートナーから食材を輸入



水産加工品 原料を直接買い付け

- ◆ 当社のグローバルネットワークを活かし、水産業者から直接買い付け、中国や東南アジアで加工して日本に輸入
- ◆ 冷凍野菜・冷凍調理品と同様に、食品部品質モニタリングラボで定期的に品質検査し安全・安心を担保



高度な品質管理体制

- ◆ 独立した品質管理部門を持ち、残留農薬検査や微生物検査などを実施、安全・安心な食材を提供
- ◆ 現地スタッフや品質管理スタッフが加工工場を訪問し、生産現場の確認と品質管理指導を実施
- ◆ 検査の結果、基準値をオーバーすれば、出荷停止・出荷済み商品を回収

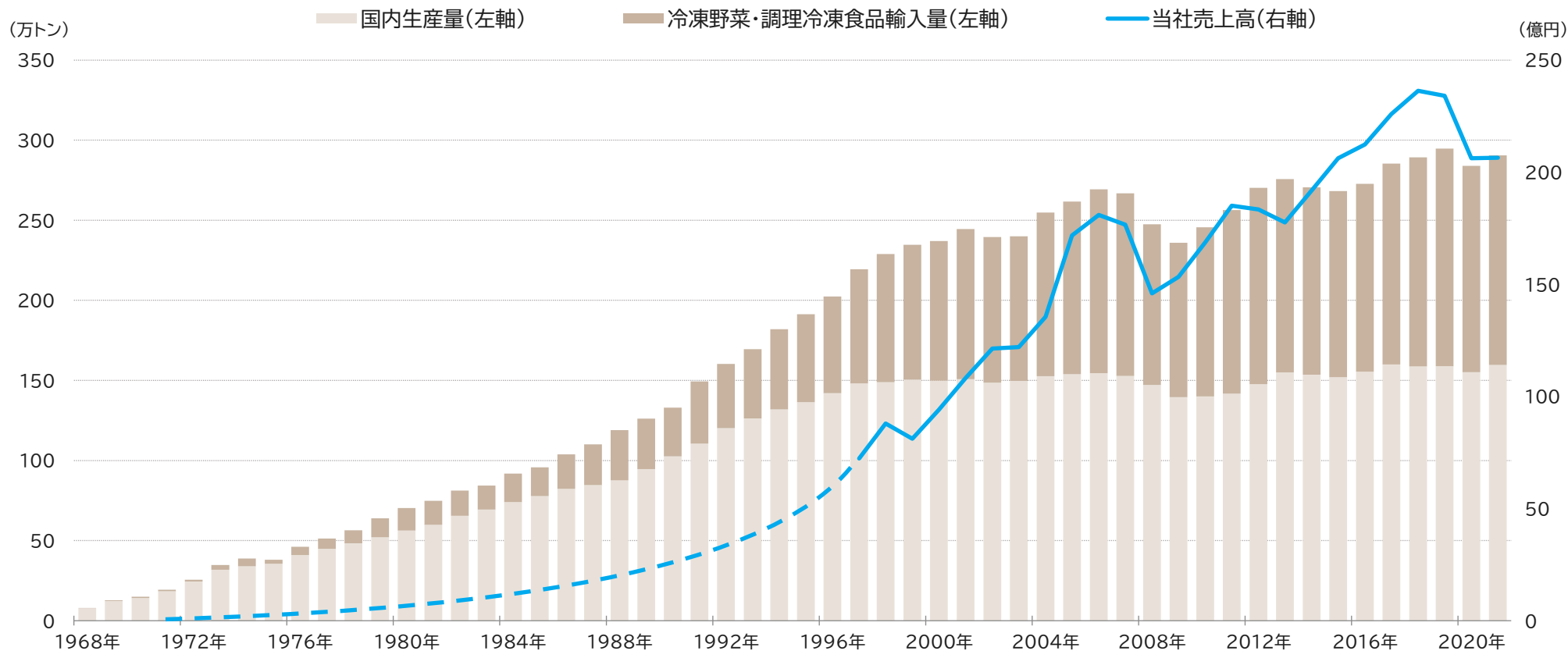


冷凍食品事業の推移



- ◆ 1971年に開始した冷凍食品事業は、2020年3月期の売上高は234億円となったが、コロナ禍影響により22年3月期は206億円に減少、過去20年間では年平均3.3%増収と冷凍食品消費量の伸びを上回る成長を達成
- ◆ 2021年の冷凍食品消費量は290万トンで過去20年間で年平均0.9%増、国内生産は横ばいだが輸入品が増加

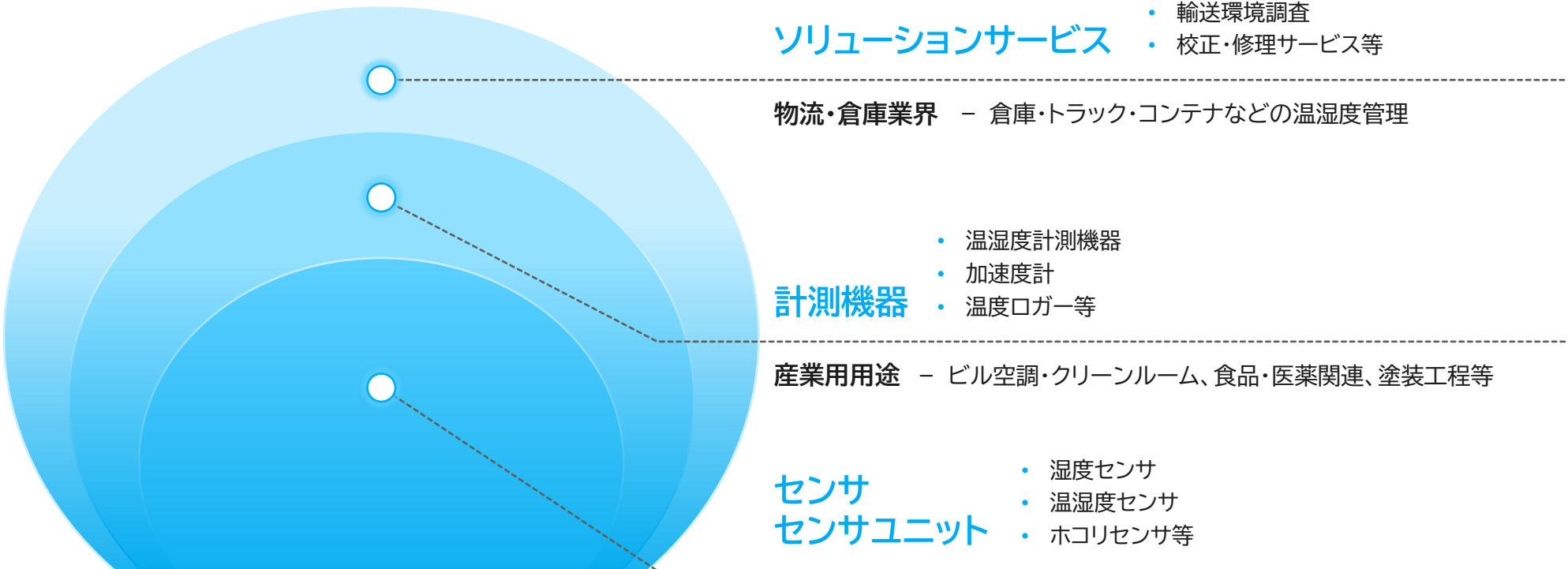
冷凍食品 当社売上高・国内市場



(出所) 国内生産量と調理冷凍食品輸入量は日本冷凍食品協会、冷凍野菜輸入量は「日本貿易統計」(財務省)

強み2. センサ開発からシステム提供まで展開

- ◆ 光学式ホコリセンサや高分子湿度センサを初めて量産化し、いずれもトップクラス
- ◆ センサや計測技術・校正技術をコアに、計測機器の販売からシステム・サービスに展開し高付加価値化を狙う
- ◆ 納入先も民生用空調機器メーカーから自動車やプラント、物流・倉庫業界へ拡大



ソリューションサービス

- 温度・温湿度計測サービス
- 輸送環境調査
- 校正・修理サービス等

物流・倉庫業界 - 倉庫・トラック・コンテナなどの温湿度管理

計測機器

- 温湿度計測機器
- 加速度計
- 温度ロガー等

産業用用途 - ビル空調・クリーンルーム、食品・医薬関連、塗装工程等

センサ センサユニット

- 湿度センサ
- 温湿度センサ
- ホコリセンサ等

民生用・自動車用途 - エアコン・空気清浄機、加湿・除湿器、カーエアコン等

校正技術

(計測数値の正確さを検証)

湿度に関する国際MRA*1(相互承認)対応JCSS*2認定事業者

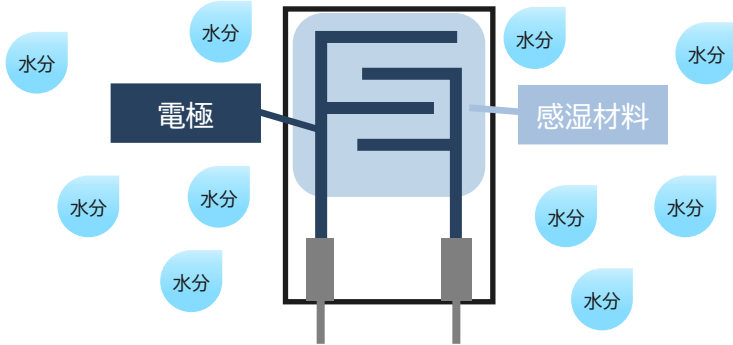
*1 国際MRA(Mutual Recognition Agreement) : 相手国向け機器の認証を自国で実施することを可能とする協定
 *2 JCSS : Japan Calibration Service System(計量法)トレーサビリティ制度、計量法に基づく日本の校正事業者登録(認定)制度

湿度センサ・湿度計測器

- ◆ 1970年に業界初の金属酸化物型湿度センサを開発・製品化、センシング技術のリーディングカンパニー
- ◆ 湿度センサは素子から開発・生産し、センサユニット、温湿度計測機器として販売

湿度センサ

塗布した感湿材料に吸湿/脱湿される空気中の水分によって変化する電気抵抗を測定することで湿度を計測



湿度センサ

民生用途から産業用途まで幅広い分野で使用されている抵抗式高分子湿度センサ

温湿度センサユニット

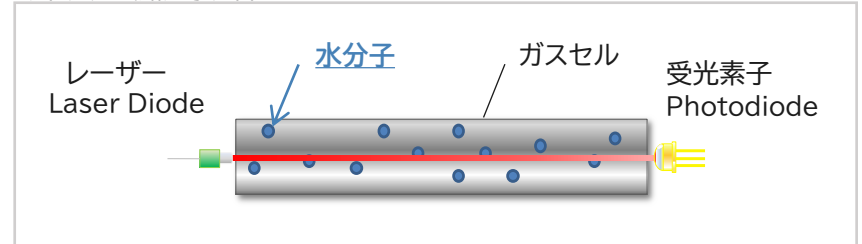
民生分野には小型・低コストの温湿度センサユニット、産業分野には高精度なユニットを、用途に応じて提案、販売
ユーザーの要望に応じたOEM販売も実施



露点水分計

水分子の光吸収により減光されたレーザー光の強度を測定

吸収分光式露点水分計



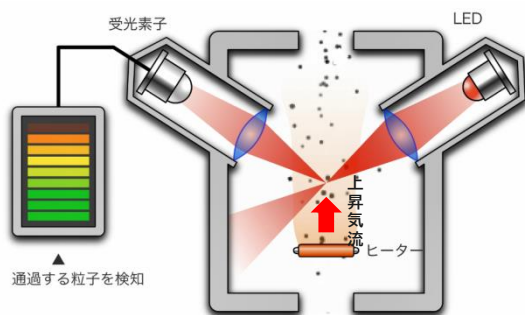
温湿度計測機器

高精度な温度計測、湿度計測を簡単に行える
温湿度計測機器
多点計測を容易に行える機種もラインアップ

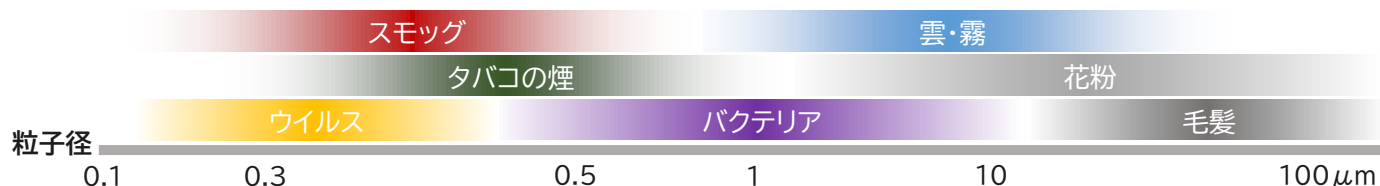
- ◆ 空気清浄機やエアコン向けから、車載用空調システムやクリーンルームに使われる高性能なセンサユニットやモニターを開発
- ◆ 国内自社工場で生産し、生産能力は年間500万台以上で世界でもトップクラス

ホコリセンサ

1994年、世界に先駆け、光学式ホコリセンサユニットを開発、量産開始
 光の散乱を利用した計測原理を採用し、計測対象となる粒子の大きさに合わせた光学設計を適用



センシング領域



パーティクル
センシングモニター
AES-FPシリーズ
(微粒子計測モデル)

クリーンルームなど産業分野で
低濃度の微粒子を検知し、清浄度
モニタリングが可能

パーティクル
センシングモニター
AES-MCシリーズ
(粉じん濃度計測モデル)

金属アーク溶接等の作業現場における
粉じん濃度の常時監視を実現、
0~300 μg/m³までの計測が可能

家電・IAQモニター用
ホコリセンサ

車載用ホコリセンサ

大気PM2.5測定用
PMセンサ

一般居住空間、車室内用途向けで、
タバコ煙やハウスダストを含む
PM2.5に敏感に反応

花粉センサ

パーティクルセンシング
モニター
AES-LPM(粗粒子計測モデル)

各種工程での品質管理に必要な
数μm以上の粗粒子や花粉の計測
が可能

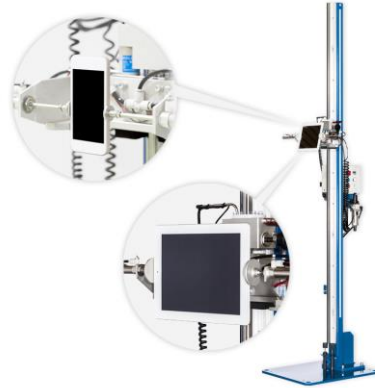
強み3. 落下試験機、計測器のトップメーカー

- ◆ 日本で唯一の落下試験機・衝撃試験機と加速度計測機器の専門メーカー
- ◆ 測定や校正にノウハウを有し、落下試験機は世界でもトップクラス

落下試験機

スマートフォンやノートPC等の電子機器・電子部品から大型の包装貨物までを落下させ、衝撃に対する耐久性を評価

繰り返し再現性の高い落下試験が簡単に行えることから、スマートフォンやノートPCの落下性能試験では、世界標準として用いられている



衝撃試験機

衝撃台を強制落下させたり、高速加速度衝撃を加えることで、衝撃に対する耐久性を評価
正弦半波、台形波パルスによる衝撃試験を実施

マイクロデバイスから大型製品まで大小様々な物体に対して条件に応じた高性能の試験を行うことができる



計測器

衝撃加速度計測システム

衝撃加速度を多チャンネルで測定可能、SRS解析、3軸合成などを行い解析



小型3軸加速度ロガー

小型サイズの3軸加速度ロガーで、振動用・衝撃用の加速度センサを搭載し、様々な加速度計測が可能



鉄道用測定・計測機器

振動加速度計

鉄道車両の振動をデジタル処理し、軌道管理や車両保守管理に使用



簡易車輪直径測定器

鉄道車両の車輪直径、フランジ高さ/厚さ、輪重、車輪摩耗、内面距離を測定



強み4. 物流用データロガー

- ◆ GDPガイドライン*1やHACCP*2などにより、医薬品や食品では保管・輸送中の温度管理が重要に
- ◆ センシング技術や輸送環境計測技術、食品事業でのネットワークなどを活用し、物流分野での計測サービスを展開



保管・輸送での適切な温度管理が必要

メディパルHD*3との資本業務提携(詳細は次頁)



物流用データロガー

温度・湿度・衝撃・振動・照度の計測など

国内医薬品市場 10.6兆円 (2021年)	国内冷凍食品市場 7,028億円 (2020年)	トラック運送事業 16.3兆円 (2018年)	倉庫業 2.2兆円 (2018年)
------------------------------	--------------------------------	-------------------------------	-------------------------

*1 医薬品の適正流通(GDP)ガイドライン:高水準の品質保証の維持と医薬品の流通過程での完全性を保証するためのガイドライン

*2 HACCP(ハサップ):食品等事業者が原材料の入荷から製品の出荷に至る全工程で、食中毒菌汚染などの危害要因を除去・低減させるために工程を管理し、製品の安全性を確保する手法

*3 メディパルHDは株式会社メディパルホールディングス

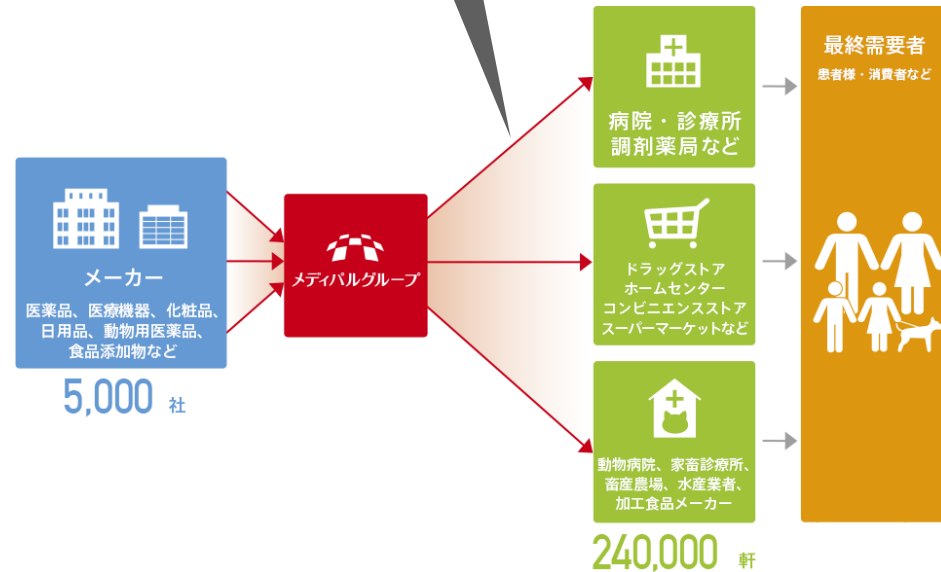
(出所)国内医薬品市場はIQVIA、国内冷凍食品市場は日本冷凍食品協会、トラック運送業・倉庫業は「物流を取り巻く動向について」国土交通省(2020年7月)

メディパルHDとの提携


- ◆ メディパルHDの子会社メディセオと温度ロガー「G-TAG TempView」を共同開発、モデルナ製の新型コロナワクチンの保管・輸送に採用
- ◆ 2021年12月にメディパルHDと資本業務提携し、温度に加え湿度、衝撃、振動、照度の計測など物流用データロガーの用途拡大や機能拡張により、医療用医薬品等の流通機能の高度化とその流通体制の構築を目指す

メディパルHDの事業*

流通過程で厳格な
温度管理が必要



 メディパルホールディングス

 豊かな社会へのパートナー 神栄グループ
SHINYEI 神栄株式会社

医療物流の
ノウハウ・ニーズを熟知



温湿度、振動などの
計測・管理のノウハウ

医療物流用のシステム・サービスを
共同開発



温度ロガーとスマートフォンを
連携して計測データの
出力・管理が可能

- 校正による計測器の信頼性確保
- 改ざん不可であるPDF形式でレポートを自動作成

医薬品物流市場へ展開

*メディパルホールディングスのホームページより

強み5. センサ技術を食品関連に展開

◆ 当社の持つセンサや計測技術、校正技術と食品ビジネスでのネットワークを活かし、食品メーカー向け計測機器を販売

センシング技術・計測技術
(温湿度・ホコリ計測)
校正技術

輸送環境計測技術

食品事業でのネットワーク

食品の「安全性」や「品質」の管理に

食品を無事にお客様まで
お届けするための物流管理に

製造現場やラボの環境
(温度・湿度・清浄度)管理に

水分活性測定計 AwView®

食品の中に、腐敗や食中毒の原因となる微生物が活動可能な水分がどれくらいの割合で存在しているのかを測定し数値化



食品分野のHACCP対応を支援、スマートフォンによる操作で公定法で求められる測定方法へ対応

ハンディにおいモニター OMXシリーズ

においの強弱や傾向を数値化し、食品の品質チェックや異常有無を点検



TempView®

物流(輸送・保管)中の温度管理に適した温度ロガー



ShockView®

衝撃の大きさや発生日時を記録する衝撃ロガー



TrecView®

輸送時の貨物状態を記録するマルチロガー



Bluetooth対応温湿度ロガー HygroView®

高い信頼性と簡単な操作性を両立した新しい温湿度ロガー



スマートフォンで環境(温度・湿度)の記録管理が可能

パーティクルセンシングモニター AES-FPシリーズ

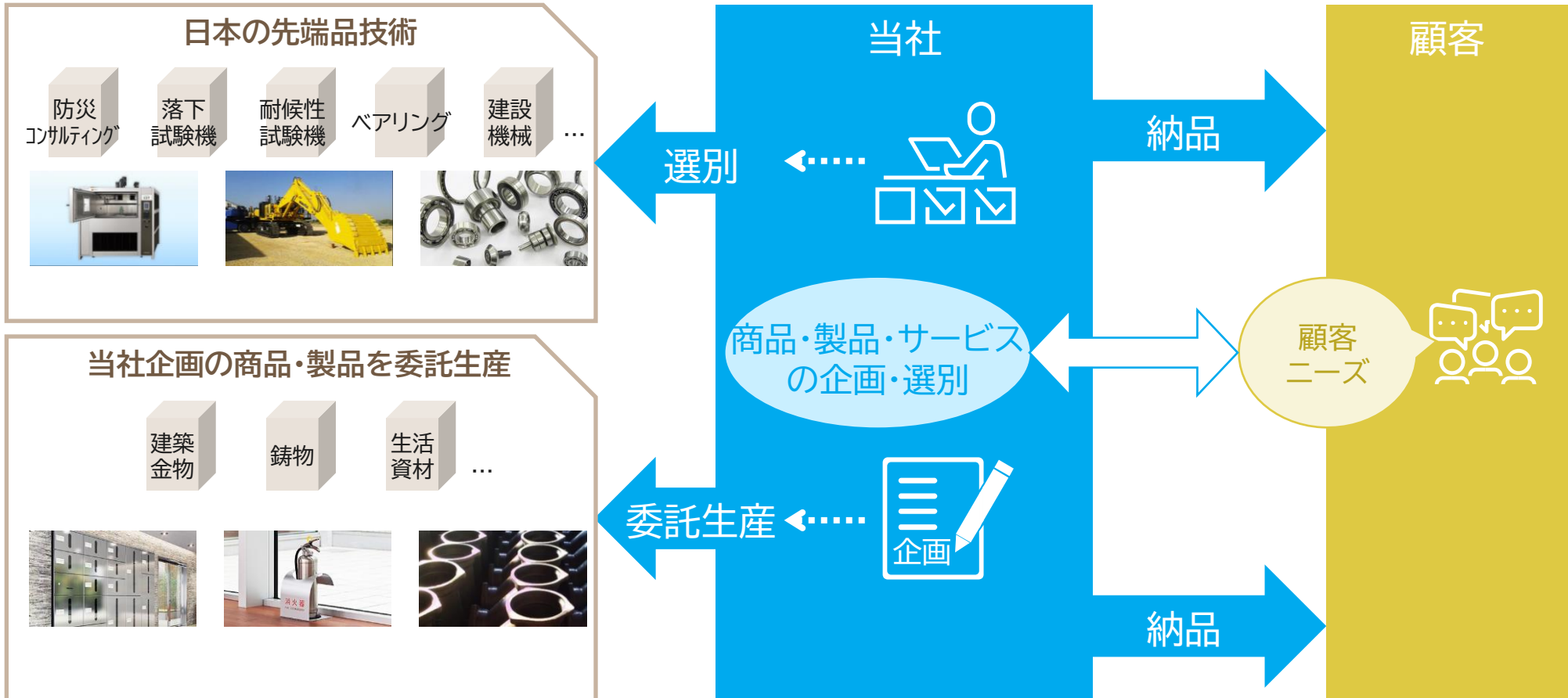
清浄度管理が必要な環境で0.3 μm以上の粒子を常時監視



浮遊粒子の「見える化」でHACCP対応を支援

強み6. 物資関連

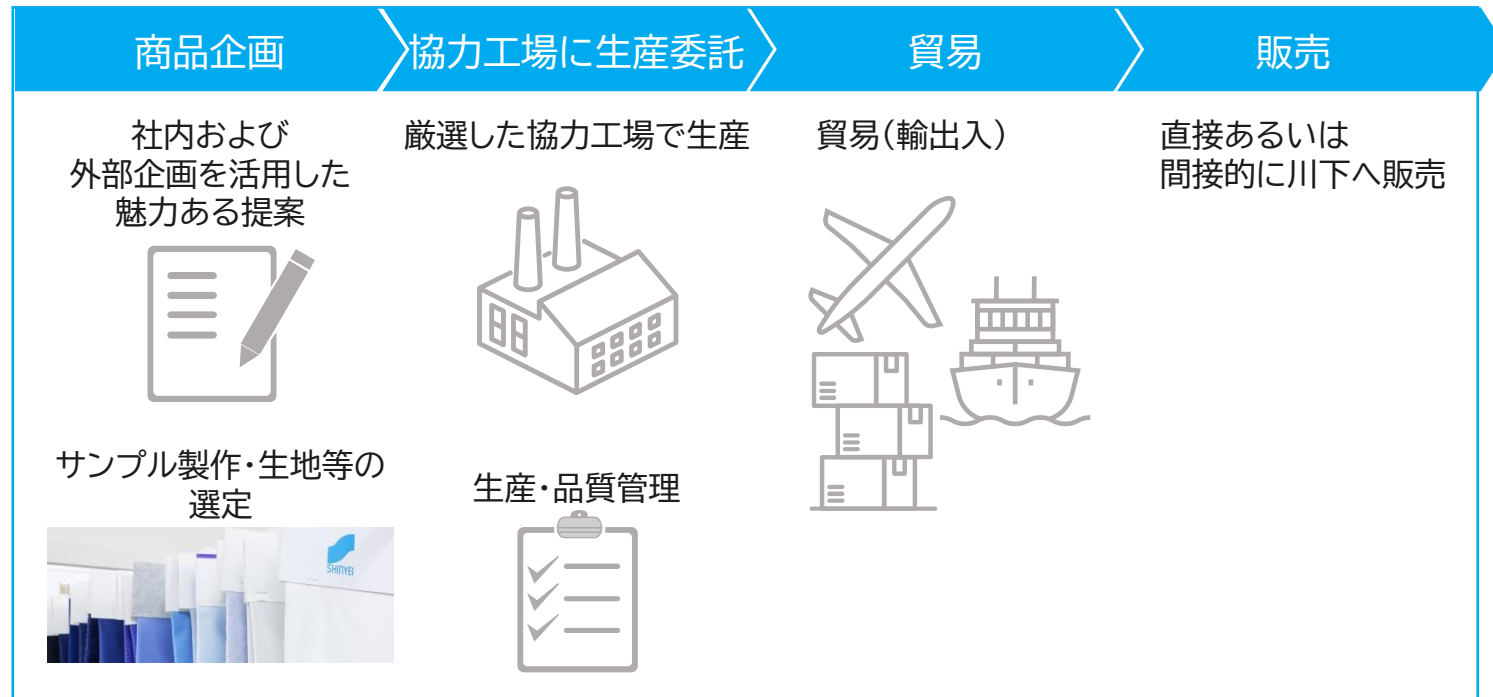
- ◆ 1900年代初めからスタートした海外貿易でのネットワークを活かし、グローバルにビジネス展開
- ◆ 日本の最先端技術をマッチングし、北米・アゼルバイジャン・中国等で商品・サービスを提供
- ◆ 顧客のニーズにマッチしたデザインや使い勝手を備えた商品・製品を企画し、日本・東南アジア・中国で委託生産



強み7. 繊維関連(アパレル事業)

- ◆ 1952年から中国貿易を開始し、現地とのネットワークを強化、顧客ニーズと協力工場とのコーディネート力に強み
- ◆ メイン生産地 中国では、現地法人 神栄商事(青島)貿易有限公司による生産・品質管理および決済機能を活用
- ◆ 中国の生産拠点を活用できる、量販店向けメンズカジュアル衣料を得意とする顧客の存在
- ◆ 自社企画・自社デザインによるストーリー性あるアパレル衣料品でテレビショッピング・通販向けを強化

勢いのある販売チャネルに対し、幅広い年齢層向けの、
人々に寄り添った衣料および関連商品を供給



中期経営計画

神栄チャレンジプロジェクト2023

(2022年3月期～2024年3月期)

神栄チャレンジプロジェクト2023

スローガン

上昇気流に乗ろう
“Get on the updraft!”

目標

環境変化にも適切に対応し安定的に
連結経常利益10億円を創出できる
企業・収益体質を構築する

基本姿勢

- 自主自律の職場風土の確立
- 営業部門：国内外で活躍できるタフな人材の育成
- 管理部門：事業部門を支え、事業拡大に資する機能・サービスを提供
- 新たな働き方改革・生産性改善を通じて、利益拡大とワークライフバランス改善の両立を目指す
- 総合力を発揮し、部門・組織を超えた内部連携を強化し、グループとしての利益の最大化を目指す

神栄チャレンジプロジェクト2023

基本方針

- 新たな事業ポートフォリオの組成
- DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進
- 新たな働き方改革と生産性改善
- デジタルコミュニケーションの推進
- ヒューマンリソースの確保・育成
- ガバナンス・コンプライアンス強化の継続
- リスクマネジメントの強化

- ◆ 中核事業の基盤強化により、仕入ソーシング力の増強、高付加価値製品の開発・取扱いに注力する

既存事業

- 当社グループの強みを有する中核的事業の拡大を目指す
- 「モノづくり」をキーワードとして、高付加価値製品・商品を取扱うことを基本とする
- 食品・物資・繊維の各セグメントでは、仕入ソーシング力の増強を図り、価格・品質競争力をベースに強固なサプライチェーンを構築する
- 電子関連セグメントでは、価格競争力を強化する一方、新たな高付加価値製品の開発に注力する
- 全セグメントにおいて、より川下に近い流通層・ユーザーへのアプローチを継続する
- 不振が続く事業については、スピード感を持って必要な事業構造の転換を進める

新規事業

- 既存事業に関連し、当社グループの強みを活かせることを前提に推進
- メディパルHDとの提携により医薬品物流分野へ本格的に参入
- 食品事業と電子事業のコラボレーションによる、HACCPに準拠した物流用ロガーや新製品の水分活性測定器「AwView」を活用した食品物流市場における新事業の展開

食品関連

- 冷凍食品事業は、市販市場への取組みや食品・惣菜メーカーへの供給を通じて川下の流通層へのアプローチを進めるとともに、海外事務所機能を活用しタイ産、ベトナム産商品の供給能力を高め、日本国内協力工場への設備投資なども検討し、新たな販路・商流を構築する
- 農産事業は、カシューナッツでのトップシェアを目指すことを含め、ナッツ類の輸入取扱拡大への取組みを継続し、事業基盤のワンランクアップによる、安定した収益貢献事業化を図る
- 海外事業では、日本産品の食品輸出を含め、香港市場、中国市場それぞれにおける食品販売事業の拡大を進め、事業基盤をさらに確実に厚くすることで、収益源の多様化に貢献する

物資関連

- 物資・工業製品等において、日本の優れた技術・製品の輸出や海外での適地調達による「機能するサプライチェーン」の構築を図り、グローバルな展開を推進
- 自然災害対策や施設等の安全対策に関するコンサルティングを計画どおり推進し、必要に応じて対策工のための資機材の供給を行うことで、都市インフラ整備に貢献し、さらなる役務提供の機会につなげる
- 建築金物・資材分野では、ファブレスメーカーとしての企画開発力を磨き、高付加価値商品のラインナップを拡充、新規販路の開拓も進める

繊維関連

- 基幹となる量販店向けでは生產品質管理を強化し、ホームセンター向け等では企画提案を充実させ、販売先および取扱量の拡大を目指す
- テレビショッピング・通販向け等では顧客層、商材・市場の拡大により、新たな中核事業の一つへと育てていく
- テキスタイル事業では機能性を有した高付加価値商材の提案強化により取扱量の拡大を目指す
- 各種戦略への取組みを加速させて、事業の収益構造を確立させる

電子関連

- 高い技術力と品質力を強みとして高付加価値製品・サービスを提供することで、ステイタスとブランド力を高め、継続的な事業成長を図る
- センサ機器分野は新たなセンシング市場への進出による事業規模の拡大を図る
- 計測・試験機器分野は成長市場への参入による事業基盤の安定化を図る
- コンデンサ分野は事業構造の変革により収益の安定化を図る

サステナビリティの取組み



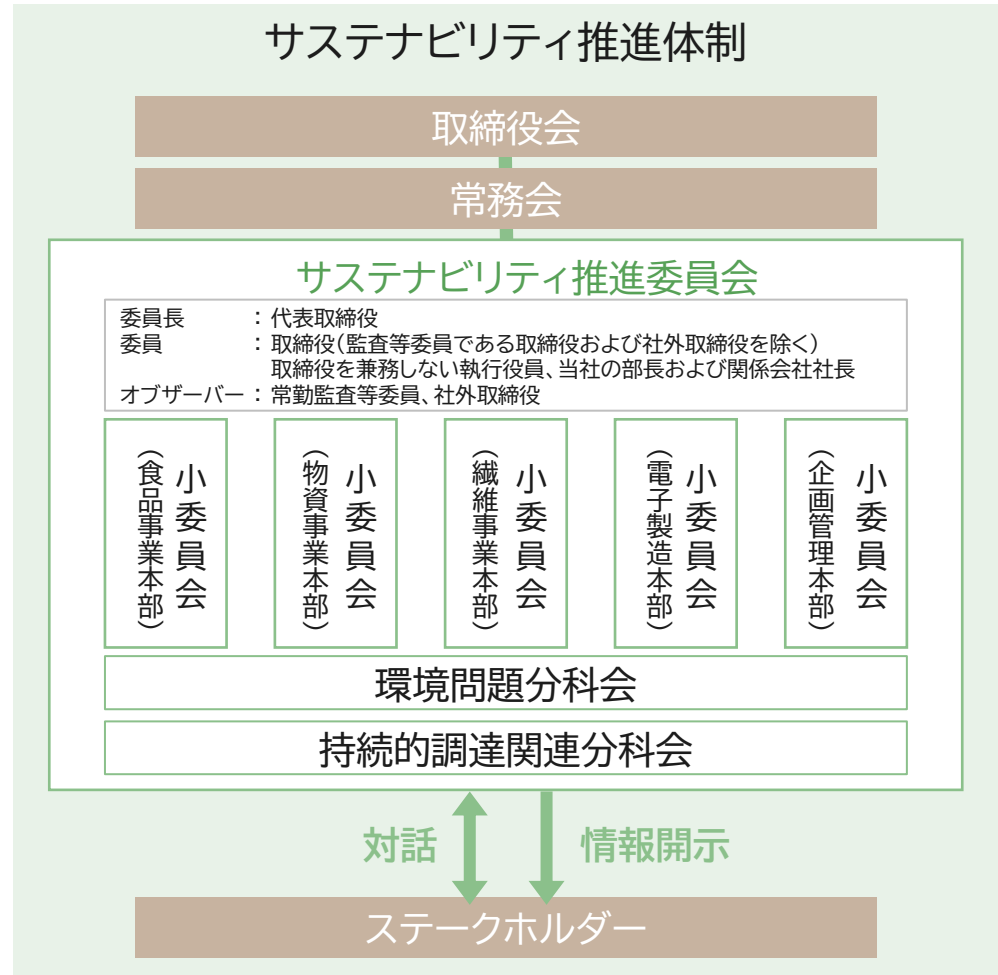
サステナビリティ基本方針

- ◆ 神栄グループの持続的成長と企業価値向上を目指すことを目的として、取締役会にて「神栄グループサステナビリティ基本方針」の策定と「サステナビリティ推進委員会」の設置を決議
- ◆ 「サステナビリティ推進委員会」は、代表取締役を委員長とする全グループ横断的な組織として、サステナビリティの推進に関する取組み全般の統括管理を担う

神栄グループ サステナビリティ基本方針

神栄グループは
「新しい価値の創造につとめ
豊かな社会づくりに貢献します」

という経営理念の下、
神栄グループ倫理憲章を常に遵守し、
グローバルなネットワークを活用して、
人々の様々な豊かさと持続可能な社会の
実現に向けて全力で貢献するとともに、
その結果として自らの持続的成長と
企業価値向上に努めます。














マテリアリティ(1)

- ◆ 社会的責任を果たし、持続的成長を目指すために取り組むべきと考える重要度の高い課題であるマテリアリティを特定
※各項目や取組目標は社会環境変化などに応じて適宜見直す

社会課題	マテリアリティ	事業領域	項目	現中期経営計画期間中の取組目標	対応するSDGs
地球環境保護(E)	環境に配慮した事業の推進	食品関連	食品ロス低減への貢献	<ul style="list-style-type: none"> 長期保存や品質保持などの特性を有する冷凍食品をさらに普及させることで、食品ロスの低減に貢献する 	  
		電子関連	物流環境における包装材料の削減や製品破損の防止への貢献	<ul style="list-style-type: none"> 物流環境における効率的な包装設計の実現や製品の破損防止に資する各種試験機と知見の提供により、包装材料の削減や製品自体の破損防止に貢献する 	
		全事業	サプライチェーンにおける廃棄物の削減	<ul style="list-style-type: none"> 開発・企画・設計・原材料調達・加工・製造・流通・販売等の各プロセスにおいて、サプライヤーや顧客とも協同し、ロスの低減や資源の再利用、グリーン調達の促進などにより、廃棄物を削減する 	

マテリアリティ(2)

社会課題	マテリアリティ	事業領域	項目	現中期経営計画期間中の取組目標	対応するSDGs
持続可能な社会(S)	暮らしを豊かにする 製品・商品および サービスの供給	食品関連	豊かな食生活に貢献する食品の安定供給	<ul style="list-style-type: none"> ● 食の安全・安心の確保を第一とし、おいしさや機能性も追求する ● 手軽に購入できるリーズナブルな価格を維持・追求する ● 世界の食材を持続可能な形で利用し、安定的に供給する 	   
		物資関連	快適・安全・持続可能な暮らしづくりに貢献する製品・商品およびサービスの供給	<ul style="list-style-type: none"> ● 自然災害対策や施設等の安全対策に関するコンサルティングや資機材の供給により、安全で持続可能な都市基盤の構築に貢献する ● 日本固有の優れた技術・知識・経験・サービスを輸出し、より快適な社会を実現する ● より快適な住環境を実現する高付加価値製品を開発し、供給する 	   
		繊維関連	心を豊かにし健康で快適な暮らしに役立つ衣料品等の供給	<ul style="list-style-type: none"> ● 身につける人の心を豊かにし、ライフスタイルや気候に応じた健康で快適な生活につながる衣料品等を供給する 	 
		電子関連	健康で安全・安心な生活を促進する製品の供給	<ul style="list-style-type: none"> ● 健康維持に必要な空気質の管理や医薬品の品質・有効性・安全性の確保に資するセンサ・計測機器を供給する 	 
	持続可能なサプライチェーンの実現	全事業	サステナブル調達推進	<ul style="list-style-type: none"> ● サステナブル調達ガイドラインを策定し、サプライヤーに周知する 	 
	共創活動の推進	電子関連	パートナーシップの推進による新たな付加価値の創出	<ul style="list-style-type: none"> ● ビジネスパートナーとともに、豊かな暮らしを支える製品やサービスを開発する 	 

マテリアリティ(3)

社会課題	マテリアリティ	事業領域	項目	現中期経営計画期間中の取組目標	対応するSDGs
労働環境(S)	働きがいのある職場環境の整備	全社	働きがいのある職場づくり	<ul style="list-style-type: none"> ワークライフバランスを尊重した多様な働き方を可能とする働きやすい職場づくりを促進する 従業員の仕事のやりがいを向上させる制度・職場環境を整備する 多様な価値観を許容する企業風土を醸成し、ダイバーシティを推進する 	
ガバナンス(G)	経営基盤の強化	全社	ガバナンス体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> 持続的成長と企業価値の向上に資する新たなガバナンス体制を確立する 	
			コンプライアンスの徹底	<ul style="list-style-type: none"> 法令情報の周知や研修の実施などにより、コンプライアンス意識を向上させる 	
			内部通報制度の利用促進	<ul style="list-style-type: none"> 内部通報制度(神栄ヘルプライン)をさらに有効に活用するため、従業員が躊躇なく通報できるよう運用改善を行う 	

「サステナビリティ」ページ開設

- ◆ サステナビリティの取組みを重要な経営テーマとして推進していくこととしており、神栄グループのウェブサイト「サステナビリティ」ページを開設

<https://www.shinyei.co.jp/sustainability/>



神栄株式会社 SHINYEI

HOME 神栄について **サステナビリティ** 神栄の事業 IR情報 採用情報

「サステナビリティ」ページ開設

サステナビリティ
SUSTAINABILITY

神栄グループにおける
サステナビリティの取組み
FOR SDGs



神栄グループは、「新しい価値の創造につとめ豊かな社会づくりに貢献します」という経営理念の下、食品・物資・繊維・電子という人々の生活に関わる事業分野で、暮らしを豊かにする安全で安心な製品・商品およびサービスを提供するよう日々努めております。

このような中、2015年に国連サミットにおいて採択された「持続可能な開発目標」(SDGs)が示す社会課題解決に向けて取り組むことは、新たな事業機会の創出や事業成長にもつながるものであり、環境問題を始めとする各種課題への企業の取組みが注目される中で社会的責任でもあるとの考えに基づき、サステナビリティの取組みを重要な経営テーマとして推進していくこととしており、その基礎となる考え方を示すものとして、以下のとおり「神栄グループサステナビリティ基本方針」を定めております。



2023年3月期第2四半期決算



2023年3月期第2四半期決算 業績概要

- ◆ 売上高は前年同期比3.1%の増収、価格調整が徐々に進展中の食品関連と、輸出事業が伸長の物資関連で増加
- ◆ 増収に伴う増益に加え、輸入事業における円安進行下での先行予約等に係る為替差益計上などもあり、経常利益は前年同期比45.7%の大幅増益
- ◆ 特別損失にフィルムコンデンサの取引に関する米国での民事訴訟への対応等に係る訴訟関連損失を計上し、当期純利益は前年同期比11.7%の減益

	2022/3期2Q		2023/3期2Q		期比較	
	実績 (百万円)	売上比 (%)	実績 (百万円)	売上比 (%)	前年比 (%)	売上比増減 (pt)
売上高	18,628	100.0	19,211	100.0	+3.1	—
売上総利益	3,680	19.8	3,752	19.5	+2.0	△0.3
販管費	3,272	17.6	3,313	17.2	+1.2	△0.4
営業利益	407	2.2	439	2.3	+7.7	+0.1
経常利益	350	1.9	510	2.7	+45.7	+0.8
当期純利益	273	1.5	241	1.3	△11.7	△0.2
1株当たり純利益	71.25円	—	59.40円	—	△16.6	—

2023年3月期第2四半期決算 四半期業績概要



◆ 1Q・2Qともに前年同期比で増収・経常増益

単位:百万円	2022/3期				2023/3期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
売上高	9,287	9,340	10,263	8,794	9,730	9,481
売上総利益	1,860	1,820	1,891	1,642	1,818	1,933
販管費	1,639	1,633	1,649	1,570	1,655	1,658
営業利益	220	187	241	71	163	275
経常利益	223	126	244	40	267	242
当期純利益	156	116	176	24	209	31

(参考)

平均為替レート(米ドル)	109.52円	110.11円	113.71円	116.34円	129.75円	138.27円
緊急事態宣言	4/25~6/20	7/12~9/30				
まん延防止等重点措置	4/5~9/30			1/9~3/21		

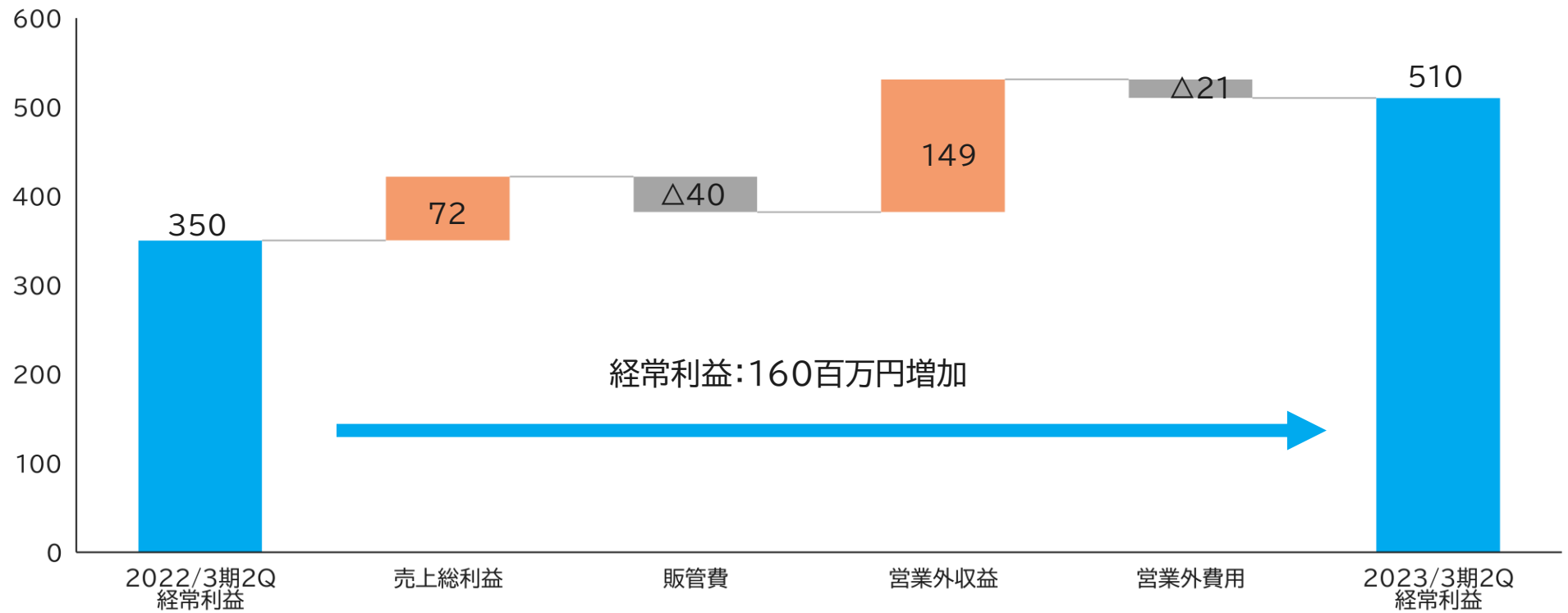
2023年3月期第2四半期 セグメント別売上高・経常利益

- ◆ 食品関連は、冷凍食品の需要回復が見込まれる中、価格調整が徐々に進展していることにより増収、1Qはコスト増影響で減益だが、2Qは対応進展し増益
- ◆ 物資関連は、防災関連での海外調査案件始動やベアリング・試験機等の輸出堅調で増収、円安効果もあり大幅増益
- ◆ 電子関連は、ホコリセンサが前年同期の特需一巡の影響を受け減収、繊維関連は、量販店向け等が減収

単位:百万円	2022/3期				2023/3期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
売上高	9,287	9,340	10,263	8,794	9,730	9,481
-食品関連	6,380	6,527	7,239	6,265	7,430	6,994
-物資関連	718	838	879	934	882	984
-繊維関連	929	863	1,057	541	474	485
-電子関連	1,258	1,112	1,087	1,053	943	1,017
経常利益	223	126	244	40	267	242
-食品関連	307	274	293	197	253	314
-物資関連	62	92	113	109	153	152
-繊維関連	△2	△9	△1	△43	△16	△45
-電子関連	158	104	106	81	56	102
-全社費用等	△301	△335	△267	△303	△180	△280

2023年3月期第2四半期 経常利益増減要因

- ◆ 増収に伴い売上総利益が72百万円増加
- ◆ 営業外収益で為替差益が増加したことなどもあり、経常利益は160百万円の大幅増加



2023年3月期2Q 貸借対照表

- ◆ 今後の売上増に備えた在庫積み増しや円安進行による仕入コスト増で棚卸資産が増加、増収により売上債権も増加
- ◆ 棚卸資産等の増加による運転資金増に対応し有利子負債が増加、利益計上により純資産も増加
- ◆ 自己資本比率は前期末比0.6pt改善

単位:百万円	2022/3期	2023/3期2Q末	前年期末差
流動資産	15,817	16,904	+1,087
(内、現預金)	1,183	1,147	△35
(内、受取手形および売掛金)	5,602	5,937	+335
(内、棚卸資産)	8,449	9,279	+830
固定資産	7,762	7,568	△193
(内、有形固定資産)	4,500	4,374	△125
総資産	23,586	24,479	+892
負債	20,154	20,767	+613
(内、有利子負債)	14,914	15,623	+708
純資産	3,432	3,711	+279
負債純資産	23,586	24,479	+892
自己資本比率	14.6%	15.2%	+0.6pt

- ◆ クリーン環境監視用途(微粒子計測モデル・粗粒子計測モデル)に加え、作業現場における労働安全衛生管理用途(粉じん濃度計測モデル)にまで幅広く展開

粉じん濃度の見える化を実現する パーティクルセンシングモニターの新モデル販売開始

新製品!



パーティクルセンシングモニター『AES-MCM』

パーティクルセンサユニット『AES-MCS』

各種製造業の作業環境における粉じん濃度の見える化と常時監視を実現でき、今までにない低価格で提供
作業現場での作業環境の監視、換気・排気装置の制御、施設内の空気環境の見える化などが可能に



AES-FPM (微粒子計測モデル)
AES-LPM (粗粒子計測モデル)

清浄度管理やコンタミネーション対策に

用途事例

- ・精密部品製造工程
- ・フィルム製造工程
- ・手術室、ICU、無菌調剤室
- ・データセンター 等

AES-MCM (粉じん濃度計測モデル)

作業環境における労働安全衛生管理に

用途事例

- ・作業環境 (金属加工現場付近等)
- ・換気・排気装置制御
- ・閉鎖的空間 (地下駐車場等)
- ・一般室内空気環境 等

2023年3月期2Q トピックス(2)

- ◆ 食品メーカー様向けに神栄テクノロジー製各種計測機器のリーフレットを作成、トップセールスで営業を推進
- ◆ 食品の開発・製造・物流・品質管理(HACCP対応等)を支援

グループ内での総合力を発揮 (電子と食品のコラボレーション)

電子・食品両部門の連携により、冷凍食品事業や農産事業のお取引先様をリストアップし、順次コンタクトを実施するとともに、トップセールスでも関係先にアプローチ。冷凍食品事業や農産事業のお取引先様より「TempView」、「AwView」を受注。また、導入検討中も多数あり。



SHINYEI

食品メーカー様向け 各種計測機器のご提案
食品の開発・製造・物流・品質管理(HACCP対応等)を支援

食品の「安全性」や「品質」の管理に

水分活性測定計 AwView®

【新製品】 食品の水分活性と温度を簡単に測定できます。

これまでになかった低価格と高い信頼性の水分活性測定装置を実現
スマートフォンアプリ(iOS/Android)で操作する小型水分活性計

- ・スマートフォンによる操作で公定法で求められる測定方法へ対応
- ・公定法に準拠するアルコール耐性に優れた電気抵抗式センサを採用
- ・標準液を使用した校正もスマートフォンアプリで簡単に対応が可能

測定範囲 水分活性: 0.1~1.0Aw 温度: 15~35℃
測定方式 水分活性: 電気抵抗式センサ 温度: サーミスタ

水分活性のサイト
<https://水分活性.com>

ハンディにおいモニター OMXシリーズ

においの強弱や傾向を数値化することができます。
においの簡易計測分野における長年のベストセラー商品

- ・食品の品質チェックや異常有無の点検におすす
- ・相対的なにおいの変化を数字で確認
- ・校正は不要

検知方式 半導体ガスセンサ
電源 単3電池、ACアダプター

製品紹介サイト
<https://www.odormonitor.jp/>

製造現場やラボの環境(温度・湿度・清浄度)を管理する

Bluetooth対応温湿度ロガー HygroView®

スマートフォンで環境(温度・湿度)の記録管理ができます。

高い信頼性と簡単な操作性を両立した新しい温湿度ロガー

- ・出荷時、全数へ校正を実施(温度、湿度)
- ・耐湿性に優れた方式のセンサを採用

測定範囲 温度: -20~80℃
湿度: 10~95%rh
測定方式 温度: サーミスタ
湿度: 電気抵抗式センサ

パーティクルセンシングモニター AES-FPシリーズ

【新製品】 清浄度管理が必要な環境で0.3μm以上の粒子の常時監視ができます。

浮遊粒子の「見える化」でHACCP対応を支援

- ・微生物が付着する浮遊粒子の常時監視が可能
- ・温湿度センサ(別売)も接続可能
- ・独自の検査方法に基づいた校正サービスの提供が可能

検知粒子径 0.3μm以上
測定範囲 Class 1,000~100,000 (※)
出力単位 pcs/m³、pcs/CF、pcs/L
出力・通信 警報、Ethernet、電圧、Wi-Fi、RS485

※Class1,000は参考値です。

食品を無事にお客様までお届けするための物流管理に

G-TAGシリーズ スマートフォンより現場で全ての操作ができる物流用途に特化したBluetooth対応無線型ロガー

TempView® GT001-T/GT002-T

物流(輸送・保管)中の温度管理に適した温度ロガー

- ・測定目的に応じて2機種から選択可(センサ内蔵 / センサ延長)
- ・校正証明書標準添付

測定範囲 -40~80℃
測定方式 サーミスタ

ShockView® GT200

衝撃の大きさと発生日時を記録する衝撃ロガー

- ・コンパクトサイズ
- ・衝撃を受けた方向も特定が可能
- ・最大20日間の連続監視へ対応

測定範囲 ±200G
測定方式 3軸加速度センサ

TrecView® FIR-302シリーズ

トラック輸送時の貨物状態を記録するマルチロガー

振動、温度、湿度を連続で記録し
報告書(PDF)を自動作成

荷役や輸送など物流における
貨物の取扱いに問題が無かったことを示す「エビデンス」として利用が可能

G-TAGシリーズ専用サイト
<https://www.g-tag.jp/>

神栄テクノロジー株式会社

〒650-0047 兵庫県神戸市中央区港島南町6丁目5番2
TEL:078-304-6795 FAX:078-302-1225
<https://www.shinyei.co.jp/stc/>

2023年3月期2Q トピックス(3)

- ◆ オミクロン株の流行により、物流(保管・輸送)温度管理用温度ロガー「TempView」の需要が高まり追加受注
- ◆ 新型コロナウイルス感染症の影響等で遅れていたアゼルバイジャンでの新たな防災プロジェクトを開始

物流(保管・輸送)温度管理用温度ロガー「TempView」の受注状況

昨年、モデルナ社の新型コロナウイルス感染症(COVID-19)ワクチンの物流過程における保管時および輸送時の温度計測・管理用途として受注

2021年1月8日発表分: **5,000** 台(校正証明書付き)

2021年3月1日発表分: **5,000** 台(校正証明書付き)

オミクロン株に対応したワクチン接種の開始に伴い

新たに**2,000**台(校正証明書付き)を受注(2Q)

既流通分についても順次、校正を受注(2Q・3Q予定)



アゼルバイジャンにおける防災コンサルティング

今年は、アゼルバイジャン共和国と日本が外交関係を樹立して30年となる。当社グループでは、2011年以来10年以上にわたり、業務提携先で地質・防災のエキスパートである応用地質株式会社と協同し、アゼルバイジャン共和国において多数の防災コンサル事業を手掛けており、当期より国家的調査案件となる新たなプロジェクトを開始した。今後もアゼルバイジャン共和国の安全・安心な社会インフラの構築に向けて、日本の防災技術で貢献する。



2023年3月期業績予想



2023年3月期 業績予想

- ◆ 期初予想を上方修正、前期比で売上高は4.8%増の395億円、経常利益は49.8%増の9.5億円を予想
- ◆ 食品関連で2Q以降に円安進行等に伴う仕入コスト増への対応が進んでいること、物資関連が好調なことに加え、経費削減や為替差益の計上もあり、経常利益は期初予想比35.7%増の上方修正
- ◆ 一方、フィルムコンデンサの取引に関する米国で残存する民事訴訟への対応等に係る訴訟関連損失について、今後発生が想定される費用も加味し、当期純利益は期初予想を据え置き
- ◆ 1株当たり30円の期末配当による復配予定も変わらず

	2022/3期		2023/3期				比較	
	実績 (百万円)	売上比 (%)	期初予想 (百万円)	売上比 (%)	修正予想 (百万円)	売上比 (%)	前年比 (%)	期初予想比 (%)
売上高	37,686	100.0	39,300	100.0	39,500	100.0	+4.8	+0.5
売上総利益	7,214	19.1	7,620	19.4	7,640	19.3	+5.9	+0.3
販管費	6,492	17.2	6,770	17.2	6,660	16.9	+2.6	△1.6
営業利益	721	1.9	850	2.2	980	2.5	+35.8	+15.3
経常利益	634	1.7	700	1.8	950	2.4	+49.8	+35.7
当期純利益	474	1.3	500	1.3	500	1.3	+5.5	0.0
1株当たり純利益	121.93円	—	123.38円	—	123.38円	—	+1.2	0.0
1株当たり配当金	—	—	30.00円	—	30.00円	—	—	0.0

2023年3月期 セグメント別売上高・経常利益予想

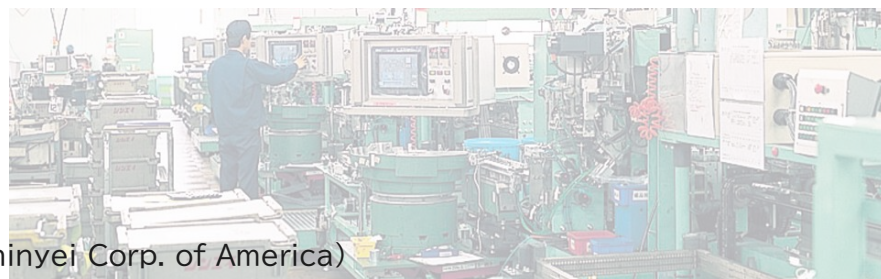
- ◆ 食品関連は、仕入コスト増への対応がさらに進むことや需要回復も見込み増収増益を予想
- ◆ 物資関連は、防災コンサルティング事業や北米向け輸出などの伸長により増収増益を予想
- ◆ 繊維関連は、量販店向けが苦戦、テレビショッピング・通販向けの増販に注力
- ◆ 電子関連は、空気清浄機用途のホコリセンサの需要回復が鈍く、産業・車載分野や物流分野に注力

	2022/3期		2023/3期				比較	
	実績 (百万円)	構成比 (%)	期初予想 (百万円)	構成比 (%)	修正予想 (百万円)	構成比 (%)	前年比 (%)	期初予想比 (%)
売上高	37,686	100.0	39,300	100.0	39,500	100.0	+4.8	+0.5
-食品関連	26,412	70.1	28,250	71.9	29,400	74.4	+11.3	+4.1
-物資関連	3,370	8.9	3,850	9.8	3,850	9.7	+14.2	0.0
-繊維関連	3,391	9.0	2,950	7.5	2,100	5.3	△38.1	△28.8
-電子関連	4,511	12.0	4,250	10.8	4,150	10.5	△8.0	△2.4
経常利益	634	-	700	-	950	-	+49.8	+35.7
-食品関連	1,072	58.2	1,150	59.0	1,270	60.8	+18.4	+10.4
-物資関連	377	20.5	410	21.0	550	26.3	+45.6	+34.1
-繊維関連	△57	△3.1	△40	△2.1	△90	△4.3	-	-
-電子関連	449	24.4	430	22.1	360	17.2	△19.9	△16.3
-全社費用等	△1,208	-	△1,250	-	△1,140	-	-	-

Appendix



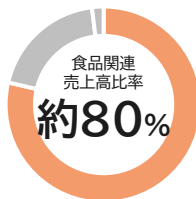
- 1887年 生糸問屋として神戸に誕生
- 1915年 貿易部を新設し繊維・雑貨などの輸出を開始
- 1929年 対米生糸輸出の拠点としてニューヨーク支店を設置
- 1943年 電機部品分野に進出しコンデンサの製造を開始
- 1949年 東京・大阪の両証券取引所に株式を上場
- 1952年 中国貿易の開始
- 1959年 対米国取引一層拡充のためニューヨークに現地法人を設立
- 1961年 中国より「友好商社」に指定
- 1965年 世界で初めてポリプロピレンフィルムコンデンサの開発に成功
- 1970年 業界初の金属酸化物型湿度センサを開発
- 1971年 日本で初めて中国から冷凍野菜の輸入を開始
- 1978年 湿度計測の性能を飛躍的に向上させた高分子湿度センサを開発
- 1979年 米国における新会社としてニューヨークに現地法人を設立(現・Shinyei Corp. of America)
- 1983年 製糸業から撤退
- 1992年 東南アジアにおけるコンデンサの製造拠点としてマレーシアに現地法人Shinyei Kaisha Electronics (M) SDN. BHD.を設立
- 1996年 全社的な営業拠点として香港支店を開設
- 2000年 建築金物販売事業を営む会社をグループ化(現・神栄ホームクリエイティブ株式会社)
- 2001年 試験機および測定機器の製造・販売事業を営む会社をグループ化(現・神栄テクノロジー株式会社)
- 2007年 電子事業を再編して神栄テクノロジー株式会社に集約
- 2009年 グループの研究開発拠点として「神栄グループR&Dセンター」を開設
- 2011年 コンデンサ事業強化のため神栄キャパシタ株式会社を設立
- 2012年 中国での冷凍食品販売のため現地法人神栄商事(青島)貿易有限公司を設立
- 2013年 東南アジアにおける冷凍食品等の仕入拠点としてホーチミン事務所を開設
- 2015年 茨城県つくば市に試験機および測定機器の研究開発・製造拠点を開設
- 2021年 株式会社メディパルホールディングスと資本業務提携
- 2022年 日本における冷凍食品輸入販売事業拡大のための仕入拠点としてバンコク事務所を開設



◆ 冷凍食品から農産品まで、加工機能を駆使し、世界の産地から食材を提供

冷凍食品事業

業務用を中心とした冷凍食品の販売
(冷凍野菜・冷凍調理品・冷凍水産加工品等)



生産の90%以上は海外の協力工場生産し、日本に輸入

当社基準の品質管理体制により、現地で食材を調達・加工・生産
本社に独立した品質管理部門を設置し、安全・安心を担保

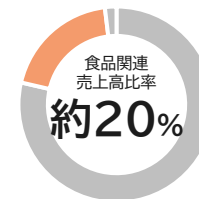
安全に対する高い信頼が要求される医療・老健施設向けに強み

主な販売先

- ホテルや飲食店などの外食
- 産業給食や医療・老健施設
- 業務用スーパー・ドラッグストアなど量販店
- 弁当・総菜、テイクアウト・家庭用途

農産物(落花生・ナッツ類)

各国から仕入れた落花生・ナッツ類の販売



落花生の取扱量では国内トップクラス
カシューナッツにおいても国内トップクラス

主な取引国

- インド、ベトナム、米国、中国、ブラジル、オーストラリア、南アフリカ、ミャンマー、フィリピン、タイなど

主な販売先

- 問屋やメーカーなど

◆ 資材開発から製品供給・施工まで、住まいと産業分野で幅広く製品を提供

防災関連



地滑り等防災に関する日本の最先端技術を日本のパートナーと共有し、防災に関する科学的分析と対策工の提案などのコンサルティングから防災工事に必要な機械や資材の提供まで、防災技術全般の役務を提供

鋳物



排水管の各種接手やバルブ部品など品質の高い鋳物製品を東南アジアで製造し、輸入販売することにより、日本国内の顧客のチャイナプラスワン戦略に貢献

ベアリング



ユーザーや特殊なアプリケーションの技術課題を解決する高付加価値・高機能特殊軸受の北米向けを中心とした輸出版売

試験機



自動車関連や携帯端末など多様に広がる試験ニーズに応え、顧客のR&Dに貢献する、優れた当社グループ製および他社の試験機の北米輸出

建築金物・資材



ファブレスメーカーとして、集合住宅用を中心とした暮らしに不可欠な建築金物(マンションの郵便受け、宅配ボックス、バルコニー物干金物など)の販売、および輸入ガラスのパイオニアとしての鏡・高透過ガラスなどの輸入販売



建設機械

港湾工事、ダム建設、トンネル掘削、鉱山開発など大型土木工事施工用に、日本のトップメーカーの建設機械を輸出

生活資材

歯ブラシ用から工業用ブラシまで、幅広い用途に応じたブラシ等の販売

◆ 企画提案からモノづくり、輸入販売まで取組み、お客様に寄り添った付加価値の高い商品を提供

アパレル

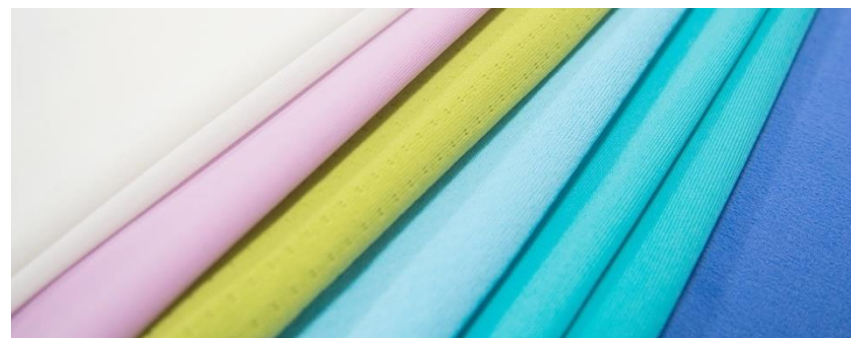


中国を中心とした海外の協力工場と提携し、品質、価格、納期面で競争力のある事業を展開

幅広い年齢層へ、メンズ・レディースウエアをはじめとする定番品、流行品や生活関連商品まで幅広く提供

量販店、ホームセンター、テレビショッピング・通販向け等幅広い販売チャネルへ商品の企画および輸入販売を展開

テキスタイル



高級婦人服用生地や紳士服用生地、スポーツ、資材向けの高機能生地を開発

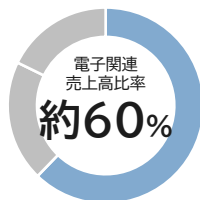
産元商社として、大手をはじめとした国内外メーカーの原糸を仕入れ、幅広い選択肢から、最適な糸とニッターとをコーディネート

生機加工だけではなく、染色からプリントまでの国内一括対応も可能

電子関連①

◆ エレクトロニクス分野の高度化を支え、快適で安全な社会づくりに貢献

センサ機器



白物家電・自動車向けからビル空調や
ハウス栽培等、幅広い用途に向けた
センサの開発・製造・校正

国内での空気質センサ専門メーカー

光学式ホコリセンサユニット

大手家電メーカーの製品に多数採用

自動車、エアコン、空気清浄機、
クリーンルームなど



車載用ホコリセンサユニット

温湿度センサ/ユニット

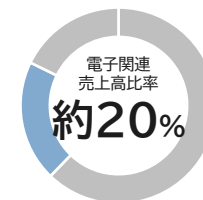
日本で初めて電子式センサを開発
センサ素子からユニットまで販売

自動車、エアコン、加湿器、
除湿器、ビル空調など



温湿度センサユニット

コンデンサ



世界初の高耐熱
ポリプロピレンフィルムコンデンサを開発



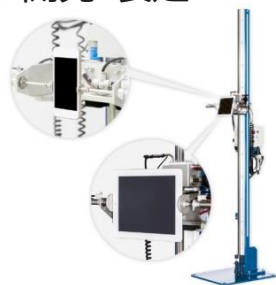
フィルムコンデンサの製造、販売
電子部品の研究開発

産業機器分野、車載電子部品向けに展開

長野・マレーシアの2拠点体制で研究開発と適地生産・適地販売を推進

試験機

落下・衝撃試験機の開発・製造



輸送・包装に関わる落下衝撃試験機

日本で初めて開発し製品化、国内トップシェア

物流会社、各種メーカー（電子、食品、物資、繊維等）、公的機関など

スマートフォン用落下試験機

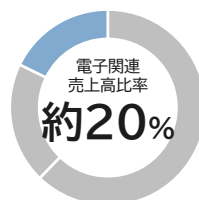
世界で初めて開発、世界トップシェア

スマートフォン、タブレット、ノートPC、スマートウォッチ向けなど

電子部品・小型機器の耐衝撃評価装置

世界初の方式を開発、世界最高性能を実現

ワイヤレスイヤホン、スマートフォン向けに搭載される各種部品向けなど



計測機器

各種産業用、物流向けを中心とした
様々な計測機器の開発・製造・校正

日本で初めて製品化

高精度温湿度計測器

厳しい条件下での高精度温湿度計測技術

国内外研究機関、気象関連機関、
ワクチン保管・輸送用途など
物流分野（特に医薬品）市場向けを強化



鏡面冷却式露点計

振動・衝撃計測器

国内の重電物流分野でシェア独占
振動・衝撃を数値化する技術

物流会社、各種メーカー
（電子、食品、物資、繊維等）など



輸送環境記録計

注意事項

事業の展望、業績予想等の将来の動向にかかる記載につきましては、歴史的事実ではないため、不確定な要素を含んでおります。

現在入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因により予想と異なる結果となる可能性があることをご了承願います。